©早稲田予備校

早稲田大学 人間科学部 日本史 講評

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	大問数５題、小問数42問、すべて選択問題で例年通り。内訳は正誤22問・語句選択12問・語句や文の組み合せ６問・年代配列２問。該当なしの場合カをマークする形式は2020年度10問、2021年度15問だったが、2022年度は５問、今年度は３問と激減している。時代別では通常、古代・中世・近世・近現代・全時代にまたがるテーマ史の５題で、全時代から満遍なく出題される。戦後史からの出題は2019年度５問、2020年度１問、2021年度３問、2022年度２問だったが今年度はなかった。それのみならず、41問が明治時代までを範囲とするものだった。分野別では、社会経済史が良く出た（2022年度）などの例外もあるが、通常は政治史を中心に外交史・文化史が出されている。また例年、５題中２題が史料問題。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	「意見封事十二箇条」	問１：ウが誤り。『日本後紀』ではなく『日本三代実録』。問３：ウが正しい。660年の唐・新羅連合軍による百済滅亡のこと。問５：オが正しい。660〜911年の出来事を選ぶ。烽の設置は663年の白村江の戦い後。	標準
Ⅱ	元寇 ＜史料＞	問１：エが誤り。鎮西探題は元寇を機においた。問３：オが正解。幕府は元寇に際し悪党の鎮圧も命じている。なお類似問題が今年度の法学部にも出ていた。問４：カが正解。８代執権北条時宗が該当する。問６：イが誤り。やや難。日蓮による『立正安国論』の幕府への献上は1260年なので、モンゴルの国書が届いた1268年よりも前になる。問７：エが誤り。元寇後、全国の守護の半分以上を北条氏一門が占めるようになった。	標準
Ⅲ	江戸時代の洋学	問１：エが誤り。関孝和の著書は『発微算法』。問４：エが誤り。平賀源内ではなく小田野直武。問６：オが誤り。生田万は陽明学者ではなく国学者。問７：カが正解。やや難。エ…長与専斎は適々斎塾の塾長をつとめた。問８：ウが正しい。エ・オ…島津斉彬と島津忠義の事績が逆になっている。	標準
Ⅳ	明治時代の政治・外交・社会	問１：イが正しい。やや難。「国民国家」は用語集③レベル。問３：ウが誤り。やや難。外務省は正しくは大蔵省。問４：カが正しい。「それから」は受験用史料集に掲載されている。問５：アが正しい。Ⅲ…熊本鎮台を攻撃したのは秋月の乱ではなく神風連の乱。問６：オが正解。河野広中の石陽社はやや難。問８：ウがふさわしい。用語集に「日本は国際上優位な地位を指す一等国となった」との説明がある。問10：オが誤り。明治期の紡績業は女性中心。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
V	原始～近代の戦争 ＜史料＞	問４：アが誤り。江戸時代の村の運営も自治に依存して成り立っている。問５：ウが正しい。1882年の済物浦条約の内容を選ぶ。問７：エが適切。やや難。史料Ｄの終わりの方に、数千人しか出兵させなければ列国は日本を疑うことになるとの説明がある。	標準

〔総合コメント〕

難問の多かった2015度をピークに年々易化が進むなかで、2022年度はやや難しかったが、今年度はまた易化した。全体的に標準レベルといえるだろう。第Ｖ問は史料を用いた全時代にまたがるテーマ史で、「戦争」(今年度)、「食文化」(2022年度)、「社会事業・社会福祉」(昨年度)、「子ども」(2020年度)、「自然環境と人間の関係」(2019年度)、「外国人による日本に関する記録」(2018年度)、「宗教」(2017年度)、「衣服の歴史」(2016度)、「民衆の厳しい生活状況」(2015年度)、「日本の食」(2014年度)、「女性の位置づけや権利」(2013年度)、「外国人の目から見た日本」(2012年度)、「情報とメディアの歴史」(2011年度)とテーマは多岐にわたる。史料問題は読解力を問われる時もある。基礎力を充実させておけば高得点を取ることは可能であるが、全体の半分を占める正誤問題では熟読を要するため、試験時間に余裕はあまりないであろう。